

P3-C-1117

白血病患者の栄養状態が理学療法に及ぼす影響

矢木健太郎¹⁾, 泉 清徳¹⁾, 井手 睦²⁾

¹⁾社会医療法人 雪の聖母会 聖マリア病院, ²⁾社会医療法人 雪の聖母会 ヘルスケアセンター

key words がん・栄養・理学療法

【はじめに、目的】

今回、理学療法を実施した白血病患者の栄養状態が ADL 能力の向上に影響するかについて検討した。

【方法】

主病名に白血病があり、理学療法を3週間以上実施した患者(1ヶ月以内の最終評価時点で死亡の患者を除く)75名を対象とした後方視的研究を行った。評価はリハビリ介入時と1ヶ月後に行い、カルテ情報を基に Berthel index(以下 BI 値), WBC 値, CRP 値, Hb 値, TP・Alb 値, 摂取カロリー数, 簡易必要エネルギー数(理想体重 IBW×25)を出した。また簡易必要エネルギー数に対する実際の摂取カロリー数の割合を必要エネルギー摂取%とし、最終時の BI 値から初期時の BI 値を引いた値を ADL 改善値とした。統計は対応のある t 検定, Wilcoxon 符号付順位検定, Spearman の順位相関係数を用い、有意水準は 5% 未満とした。

【結果】

対象者は、急性骨髄性白血病 72%, 成人 T 細胞性白血病 15%, 急性リンパ性白血病 4%, その他 5% であり、入院の目的は移植が 24%, その他は主に化学療法目的であった。リハビリ介入後, BI 値は 82.9 ± 18.7 点から 89.5 ± 12.1 点へと有意に改善していた。その他の値で有意差のあった項目は WBC 値 (6057.3 ± 11626.8 から 3071.6 ± 2733.4) であり、値は低下していた。ADL 改善値 (6.59 ± 18.9 点) は 1 ヶ月後の必要エネルギー摂取% ($97.6 \pm 25.7\%$) と正の相関を示し、相関係数は 0.34 であった。

【考察】

白血病で入院治療している患者は 1 ヶ月後の ADL 能力は理学療法実施にともない向上するが、1 ヶ月後の栄養摂取状況が不良な患者ほど ADL 能力向上が少ないことが示唆された。

【理学療法学研究としての意義】

白血病患者の理学療法実施上、栄養摂取状況把握は予後予測因子の一つとして重要であることが考えられた。